

# 令和6年度 協働のまちづくりチャレンジ事業申請書

※太枠の中をご記入ください。

申請部門	スタート部門
※プルダウンから選んでください	

## 【1】事前相談について

(1) 市民活動サポートセンターコーディネーターへの事前相談

コーディネーター名	
事前相談日時	①中田・小幡コーディネーター4/25②水本コーディネーター4/29
申請可能と言わされた日時	4月29日

※複数回相談した場合、全てご記入ください

(2) 協働を希望する課への事前相談 ※学生・高校生部門は不要です

協働希望課名	ダイバーシティ人権政策課
事前相談日時	5月9日（木）
申請可能と言わされた日時	5月9日（木）

※複数回相談した場合、全てご記入ください

## 【2】応募要件について

該当する部門の応募要件の□内に、○を記載してください。（プルダウンになっています）

該当の部門	要件内容	
全部門共通	5名以上で構成し、主に金沢市内で活動し、今後も活動を予定している団体である。	<input type="radio"/>
全部門共通	営利活動、宗教・政治活動を目的としていない。	<input type="radio"/>
全部門共通	申請事業について、国、地方公共団体又はこれらに準ずる団体から助成を受けていない。	<input type="radio"/>
全部門共通	既に地域や団体が実施している事業そのものではない。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	運営に関する規約等があり、1年以上の活動実績を持っている。	<input type="radio"/>
スタート、一般、団体連携	翌年3月31日までに事業を完了できる。	<input type="radio"/>
学生・高校生部門	翌年2月28日までに事業を完了できる。	<input type="radio"/>
スタート部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去に採択された団体ではない。	<input type="radio"/>
スタート部門	法人格を取得しておらず、かつ設立から3年以内の団体である。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	昨年度採用されていない事業である。	<input type="radio"/>
一般部門、団体連携部門	事業内容にかかわらず、この部門で過去2回以上採択された団体ではない。	<input type="radio"/>

### 【3】申請者について

団体の名称	Take a step
団体名称のフリガナ	ティク・ア・ステップ
代表者	
役職名	代表
氏名（フリガナ）	小島 悅子（コジマ エツコ）
団体の所在地	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
構成員	計 5 名
(内訳)	(1) 市内関係者 4 名 (2) その他 1 名
設立年月日	2024年 4月 1日 (設立 1年目)
設立の目的	SDGs 5ジェンダーの平等を実現するために、子供のころから、無意識を意識して、相手を尊重すること、思いやりをもつことが必要と考えました。学校や家庭以外の第3の居場所としての機能をもち、自由で安全な学びの場を提供するために設立しました。
活動概要と団体のPR	自分のからだ、自分の生き方をより幸せなものにしていくために必要な知識(科学的に正しい知識)を身に付けることが大切（出典：アクロストン） 2018年に改訂されたユネスコの国際セクシュアリティ教育ガイドラインに基づいた新しい性教育の考え方を金沢に。 今年度は子供に必要なからだのしくみの知識を楽しく・ポップで・まじめなコンテンツにしてワークショップを開催するアクロストンさんをお招きして「生理を学ぶ謎解きワークショップ」を開催します。保護者には「我が子と一緒に課題に取り組むことによる信頼関係を」子どもたちには「生理についての正しい知識を」私たち指導を志す成人には「アクロストンのワークショップの実践からの学びを」イベント終了後、次年度自主開催のため報告・意見交換会を年代別に2回行い学びを深める。
HP,SNSのURL	<a href="https://www.instagram.com/takeastep2024/">https://www.instagram.com/takeastep2024/ (Instagram)</a>
担当者連絡先	
役職名	理事
氏名（フリガナ）	高松 美樹（タカマツ ミキ）
住所	
電話番号	
FAX番号	
メールアドレス	
携帯電話番号	

※団体連携部門の場合、当該「【3】申請者」は連携先団体の分も必要であるため、シートをコピーし、シート名を「団体連携先」として記載願います。その場合、記載が必要な部分は「【3】申請者」部分のみです。

## 【4】企画内容について

提案事業・テーマ	(3) 人づくり
企画のタイトル	「わたしの身体はわたしのもの」子供の自己決定能力を育む金沢に！
事業効果	※特に事業の対象者が具体的にどうなるかを以下に記入してください。
現状の地域課題	<p>メンバーが所属しているガールスカウト石川県第7団では、令和6年能登半島地震の発生から6日後に被災地の女性の課題に応えるべく生理用品を募り、金沢市を通じて被災地に送り届けた。しかし、避難所運営に女性がかかわっていなかったため</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆生理用品を「1人2個まで」と決めて配布した ◆避難所責任者の独断で生理用品の受取を拒否した</li> <li>◆プライバシーが保たれない環境で運営される避難所の実態</li> </ul> <p>このように女性の生理など異性の身体のしくみについて、正しい知識がないこと、互いのプライバシーに対する理解が欠如することによって、女性が著しく不利益を被る状況は決して見過ごすことができない課題である。</p>
事業の実施により期待される効果	医師である専門家によるワークショップで科学的に人間の身体のしくみを学び、私たちの性に対する思い込みや固定観念を正し、性に対する知識や考え方を再構築する。自分の身体と心の健康、性別の違いによる社会の固定観念や決めつけ、職業や役割の不平等などの課題の抽出、令和6年能登半島地震で浮き彫りになった地域のジェンダー不平等にも焦点をあて、参加したすべての人が自ら気づき、考え、発言し、次世代の変化の担い手となる。保護者は我が子と共に学ぶことでタブーではないことを子供たちに意識づけ、これからの一一番の相談者となる効果を期待する。
その他	アクロストンの実践のワークショップから学びを得て次年度から自主開催を行う。事業継続のため事業終了後、事業報告書を作成し、企業をまわり支援をお願いしたい。
事業の概要	<p>アクロストン 制作 謎解きworkshop      ミッション 『避難所で適切に生理用品を配布せよ！』 の開催      対象：保護者と小学生以上の子供      内容：避難所での生理用品を配布するという任務を行いながら、その過程で生理についての基礎知識を学びます。（詳細は別紙2）      日時：8月12日（月・祝）14：00～16：00      タイムスケジュール：開会→ワークショップ（45分）→教育関連のお話会（60分）→閉会      予定講師：性教育コンテンツ制作ユニット アクロストン（講師の説明は別紙1）      希望開催場所：金沢未来のまち創造館      参加見込み数：40名（保護者と小学生以上の子供） 指導者を志す成人20名      参加費：500円（成人1名、同伴の子供は無料）      広報の方法：チラシの配布、インスタグラムでの発信        事業報告・意見交換会（2回）      対象：①指導者を志す成人・保護者 ②高校生・大学生      場所：金沢学生のまち市民交流館      ※報告・意見交換会は指導者を志す方々と次年度自主開催を目指して意見交換を行いたい。      年代ごとの意見を聞きたいので2回開催したい   </p>
具体的な実施内容	<p>※「誰が」「何を」「いつ」「どのくらい」「どこで」「どのように」実施するのかを具体的に記入してください。</p>

### 企画内容にかかる注意事項

※単発的なイベントで終わるものではなく、通年の活動や今後に繋がる継続性を考慮した事業を提案してください。

※実施方法（予定日時・予定場所・実施形態・予定講師・参加見込数）など出来るだけ具体的に記載ください。

別途資料を添付する場合は、A4サイズでお願いします。

※既存の事業で応募する場合、工夫や改善した点を明確にしてください。

## 【5】事業収支予算書

委託費

100,000 円

収入の部

(単位：円)

科目	金額	内訳など
委託料	100,000	金沢市より
参加費	20,000	500@ × 20組 + 20名
計 【A】	120000	

支出の部

(単位：円)

科目	金額	内訳など
謝金	20,000	講師料
交通費	58,320	14580@ × 2 × 2 (往復 品川→金沢 2名)
材料費	2,250	150@ × 15
消耗品費	24,620	コピー用紙、プリンターインク、封筒、チラシ作成費、意見交換会資料、事業報告書等
食糧費	7000	5000@ (講師、スタッフ当日軽食等) 2000@ (意見交換会飲み物等2回分)
印刷製本費	4930	ポスター (ポスターセッション用)
使用料及び賃借料	2880	会場費 (未来のまち創造館)
計 【B】	120000	

【A】 収入合計と 【B】 支出合計は一致 (同額) させてください。



### アクロストン 医師/性教育コンテンツ制作ユニット

#### ◆プロフィール◆

2人の医師による性教育コンテンツ制作ユニット。2人は妻、夫の関係で、この春に中3と中1になる子どもとともに暮らしています。医師の仕事をしつつなので性教育に関してとれる時間は多くはないのですが、その中で、小中学校での授業や、自治体主催の講演会・ワークショップなどを行ったり、家庭ではじめられる性教育のヒントや性に関する社会問題についての執筆、SNS等での発信、web・雑誌記事の監修などもしています。

#### ◆ご挨拶◆

「こんにちは！性教育コンテンツ制作ユニットのアクロストンです。「避難所で適切に生理用品を配布せよ！」は、生理について知識がある人も、ない人も、子どもも大人も、性別に関係なく、全員が生理について楽しく学べるワークショップです。

このワークショップを私たちが開催するようになったのは、東日本大震災や熊本地震の避難所で生理用品が適切に配られなかつたという話を聞いたからでした。こういったことが起こったのは生理そのものや生理用品への誤解や偏見があつたり、自治体や消防団など防災に関する準備をする組織に生理のある人/経験した人が少なかつたりしたためと言われています。

子どもも大人も一緒に、様々な生理用品をさわりながら、生理について語ったり、考えたりする。参加したみなさんがそんな時間を過ごせたら嬉しいです。



アクロストン HP



アクロストン note



講談社コクリコ



NHK 首都圏ナビ

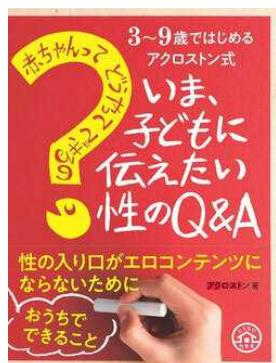
## 著書



10歳からのカラダ・性・  
ココロのいろいろブック  
変わるカラダのいろいろ編  
(ほるぷ出版)



10歳からのカラダ・性・  
ココロのいろいろブック  
性とココロのいろいろ編  
(ほるぷ出版)



3から9歳ではじめるアクロストン式「赤ちゃんってどうやってできるの？」いま子どもに伝えたい性のQ&A  
(主婦の友社)



思春期の性と恋愛 子どもたちの頭の中  
がこんなことになってるなんて!  
(主婦の友社)



おうちせいきょういくえほん  
(主婦の友社)

## 別紙2

### ワークショップ内容説明

アクロストン note 「男子のための生理（月経）の教室」から抜粋

## ミッショーン：避難所で適切に生理用品を配布せよ！

避難所での生理用品を配布するという任務をこなせるかな？

その過程で生理についての基礎知識を学びます。



### ◆このワークショップが出来たきっかけ

東日本大震災、熊本の地震の際の避難所で生理用品が適切に配られなかつたところがあるという話が頭からはなれず、そのようなことは2度と起きてほしくないと思ったからです。震災の時はこんなことを言う男性がいたそうです。

「生理なんて我慢すればいいんだ。汚らわしい。」

「一人一つ（ナプキンの個包装を）配れば十分だろう」

それは能登半島地震でも繰り返されました。

もちろん実際の避難所では女性が分配を担当すれば良いとも思いますが、生理用品を適切に配分できるようになるぐらいには男子達にも知識をつけてほしい、そして生理について真剣に考えてみてほしいとの願いから今回の授業を開催しました。

### ◆実践してほしかった裏テーマ

①わからなかつたら質問しよう

②説明書を読み込もう

生理について当事者の女性より男性が知らないのは当然です。

知らなければ女性に質問すればいいのです。質問に答えてくれる人がいなかつたら、説明書をじっくり読むという手もあります。

## ◆ワークショップのタイムテーブル

- ①生理の基礎知識の確認
- ②男子が生理を学ぶ必要性についての説明
- ③班に分かれてミッションの確認
- ④シンキングタイムその1
- ⑤ヒントタイム
- ⑥シンキングタイムその2
- ⑦最終回答の時間。各班ごとに考えたこと、学んだことの共有
- ⑧質問タイム

## ◆実際のワークの様子（男子のみのワークショップの様子）

### ①生理の基礎知識の確認

男子達にどの程度生理知識があるのか確認するために「生理って何？」と質問しました。「赤ちゃんを作ることと関係していて、お尻から血が出る」と一人の子から返答がありました。

予想していたよりも良い解答が出たので、内容を広げていきました。

「そうだね。生理は赤ちゃんがお腹の中に出来ることと関係しているね。赤ちゃんを育てる部屋の壁が分厚くなり、それが出てくるのが生理だったね。」  
そして「ただ血が出るのはお尻からではないよ。女性の股のところには3個の穴があるのはみんな知ってる？」と聞くと、男子達は「2個じゃないの！？」と驚きの様子。うんちとおしっこの穴は知っていますが、膣つまり生理の血や赤ちゃんが出てくる穴のことは知らないわけです。この3個の穴のことを説明しました。

### ②男子が生理を学ぶ必要性について

どうしても男子にとって他人ごとになりがちな生理に真剣に向かい合ってもらうために丁寧に説明しました。

「生理は赤ちゃんが出来る仕組みと関係している。だから男子のみんなは昔赤ちゃんだったよね。君たちに生理が来ることはないけれど、関係しているのだよ。生理について知るのは自分の体の仕組みを知るのと同じように大事なことだよ。」

さらに話は続きます。「生理には困りごとも多く存在するよ。生理の時にお腹が痛くなることがあるのは知ってるかな？」驚いたことに約2割程度の子しかこのことを知り

ませんでした。さらに「生理に関係して心が落ち込むことがあるのは知ってるかな？」これにいたっては殆どの子が知りませんでした。

「こんな風に生理の時には困りごとが多い。だから君たちが生理について知っていることで周りの女性、お母さん、友達、彼女、結婚相手が困っていた時にサポートできるかもしれない」。このように伝えました。

### ③班に分かれてミッションの確認

男子達には8班に分かれてもらい(クラスと学年はごちゃまぜ)、班ごとにミッションを確認しました。

区内で震度7の地震が起こり沢山の人が○○小の体育館に避難中！

避難所では食事作りや救援物資をくばるなど小学生にもお手伝いがたくさんあります。

○○小の5、6年生は、この紙袋に入っている物を必要な人にくばる手伝いを頼まれました。

さて、どうする？

謎解きゲームを少し意識したシナリオです。

シナリオと一緒に紙袋内にナプキン、タンポン、月経カップのうち一種類のものが入っています。男子達はどれが自分の班に当たっているか分かりません。

このミッション解決の手助けとして質問用紙も配布しました。そこには紙袋に入っているものは何？、どうやって使うの？、これが必要な人はどんな人？、一人に何個くばる？、と書かれています。

震度7の地震が起こり  
沢山の人が○○小の体育館に避難中！  
(という設定)

避難所では食事作りや救援物資をくばるなど  
小学生にもお手伝いが沢山あります。

○○小の5、6年生は、この紙袋に入っている物  
必要な人にくばる手伝いを頼まれました。

さて、どうする？

次の紙の質問に答えた後、くばり方がわかるはず...

※ 質問があればいつでも呼ぶべし。  
※ 紙袋の中の物はパッケージをあけてよい。  
説明が書いてあればラッキー。参考にすべし。  
※ 5分後にヒントタイムがあるかも。

質問① 紙袋に入っているものは何？

質問② どうやって使うもの？

質問③ これが必要な人はどんな人？

質問④ 一人に何個くばる？

#### ④シンキングタイムその1

先ほどの質間に答えるべく5分間のシンキングタイムです。

まず紙袋に入っている生理用品を確認。みんな見たことのないものに「なんだこれ」といった感じ。

ナプキンやタンポンはパッケージのまま紙袋の中へ入れておいたので、はじめは慎重にみていました。パッケージを開けて確認して良いことを説明すると、、、。

ここから男子達のテンションが上がっていきます。見たこともない生理用品。その素材や機構に夢中になっていました。

ナプキンをどうやったらパンツにつけられるか考える子、タンポンの使いかた(特に外側の筒の構造)で四苦八苦する子。

「なんでナプキンに模様が描いてあるの?」という質問も受けました。

そんな中、最も難しいと思っていた月経カップの班は、同封した説明書を読み込み気が付けば月経カップの折り畳み方まで習得。「ここを折りたたんで膣に入れるんだよ」とお互に使い方を確認していました。また「この避難所では水は使えるの?」と、月経カップ最大の利点、水で洗って再度使えることにまで気づいていました。素晴らしい。

#### ⑤ヒントタイム

クイズ形式でミッションを解決するヒントを確認。

生理の起こる年齢と終わる年齢、生理の頻度、継続する日数など。

テンションが上がっていたせいか、授業開始時と比べてポンポン答えが出ていました。

#### ⑥シンキングタイムその2

ヒントタイムで得たものを基に最後の追い込み。質問の回数も増えてきます。答えを埋められた班ちらほら。先ほどの月経カップの班にいたっては折りたたみ方を研究していました。

#### ⑦最終回答の時間。各班ごとに考えたこと、学んだことの共有

生理用品は8班中4班にナプキン、3班にタンポン、1班に月経カップと違うものを配っていたため知識の共有も兼ねての最終回答です。

生理用品の名称と使い方はパッケージの使い方などを参考にしてどの班も大体正解。

共通して苦労していたのが一人に何個配るのか、という質問。

ナプキンはなんとなく5個ぐらい配れば良いかな。みたいな返答が続くなか、ある班

が「大体 5 時間おきに交換だから一日 5 個必要。5 から 7 日続くとして 25 から 35 個」と、理路整然とした素晴らしい答えを出していました。

この班の回答以降、生理用品の必要な数の出し方をみんな理解していき、とある班は余裕をもって少し多めに配布する、という使用する相手に配慮した解答まで出てきました。この回答の優しさよ、、、。

最後に震災時の避難所で起きた生理用品のトラブルについて話しました。  
みんな生理用品をどうやって必要な人に配れば良いのか悩んだ後のせいか、そこまでの盛り上がりから一変、真剣にその問題について耳を傾けていました。